

市川房枝政治参画フォーラム2026

子どもの人権を 尊重した教育を!

日時 **5/23土**
10:00~16:20

会場 **婦人会館**
(新堀駅 徒歩9分)
東京都渋谷区代々木2-11

参加費 **現職議員 12,000円(税込)**
現職議員以外 5,000円(税込)

交通費 **A/B各 対面式
乗車券 1,000円(税込)**

対象者 **自治体議員及びその支援者。
テーマに深い関心がある人(生)を含む。**

申込 **お電話にてTEL・FAX
よりお申込みください。**

定員 **希望者優先
定員100
名(要抽選)**

※参加費は、以下のいずれへもお願いいたします。
口座：全日本婦人会連合会経理委員会と協賛センター
①みずほ銀行 新堀駅前支店
(普通)002844
②三井住友銀行 新堀中央支店
(普通)002899

冒頭の参加者お待ちしています。

子どもの人権。知覚は生まる前から、生活困難や不登校など、子どもが自らも様々な人権を失って苦しんでいる状況下です。子どもの権利と人権とは切っても切り離せない関係の課題です。子どもが自らも様々な困難に直面する大時、乗りこえる力を身につける教育とは何なのか、自らも様々な苦しみを経験しながら大切に「自分の権利」を主張し、他者の権利を尊重する「教育」とは、具体的に学校で何をしますか? 「教育」には責任があります。また教師や保護者、議員などの主権者として、数多くの現状や課題を「主権者教育」によって、更に権利の主張を促す、子ども達の声に耳を傾け、いとも容易く声を上げる「子どもボロカサー」になり学びます。

プログラム

10:10~ 講演 **主権者教育の現状と課題**
11:40 ―国会・学校・市民活動の役割と連携―
日本大学大学院政治学専攻科教授 **林紀行さん**

12:40~ 講演講座 **自分と相手を大切にする方法を学ぶ**
14:40 “生きる”教育”
京都大学大学院教育学研究科教授 **西岡加名恵さん**

14:50~ 講演 **子どもの心の声を聴くこともアドボカシー**
～子どものために、から、こととともに～
一般社団法人子どもの声からはなろう代表理事 **川淵信一さん**

15:30~17:30 交流席(自由参加・無料・着席定員200名)

※2026年4月現在にプログラムの詳細を一覧見せました。

お問合せ (公財)市川房枝記念会女性と政治センター

〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-21-11 婦人会館 TEL: 03-3370-0238 FAX: 03-5388-4633
E-mail: htikawa.moushikomi@fork.ocn.ne.jp URL: https://www.shichawa-funae.or.jp

2025.12/28(水)第3刷発行

〈子どもたちへのメッセージ〉

他者と適切な距離をとる
権利を学び「受援力」を身につける
「たくさんの人に守られる大切なあなた」
アイデンティティ形成（自分づくり）

※「生きる教育」が全国に広がってほしい
教師や保護者に対する教育の側面もある

② 講師 日本大学法学部 公共政策学科教授 林紀行さん

講演 主催者教育の現状と課題
ー議会・学校・市民活動の役割と連携ー

地方議会は、請願者の発言機会の保障、処理状況のHpでの公開
町田市議会は「委員会で請願者が発言できる」

<事例>

1) 富士見市議会と県立富士見高校

R 7 年 富士見市議会と富士見高校にて出前講座実施

富士見市議場を会場に富士見市の課題について6グループがテーマを決め、データ分析やフィールドワークを行い提案をまとめ発表

体験を通して自分の住む地域の行政や政治に目を向け主権者としての態度を養う取組みになった
ほんものに触れる参加する主権者教育へ転換

2) 新見市議会に県立新見高校生が陳情

2023年 衆議院議員選挙と岡山県知事選挙で移動期日前投票所を新見高校に設置

2024年 都市部と地方の教育格差をなくすため市に公営塾を開くよう陳情

一般会計予算案に2,470万円計上可決

公営塾「寺子屋にいみ」開講

市内の企業が10億円寄付

2025年 ふるさとまつりの復活を新見高校生が陳情

一般会計補正予算に160万円の補助金計上、可決、まつり開催に

3) 県立敦賀高校生が模擬請願

議会審査過程を学習

「請願提出→委員会審査→採択」を体験学習

議員のなり手不足解決の一つにもなる

おわりに、

投票する主権者から参加する主権者を育てる教育へ展開
地方議会は「開かれた議会」から「参加を支える議会」へ

※全国において高校生の参加型主権者教育が進んでいる状況を知った。

本県において県政ミーティングとして高校へ議員が出向き意見交換が始まって3年になるが、もう一歩踏み込んだ「参加型」にしていくことを検討すべきと思うが、学校と議会がタッグを組んで取り組まなければならない。

③ 講師 一般社団法人子どもの声からはじめよう代表理事 川瀬信一さん

講演 こどもの心の声を聴くこどもアドボカシー
～こどもの「ために」から、こどもと「ともに」～

・ こどもを取り巻く困難

2024年 社会的擁護のこども数 42,184人

2025年 こどもの自殺 532人

10代～20代の2人に1人が「死にたい」と思ったことがある

逆境的（小児期）体験のある子の7割が希死念慮経験を持つ

いじめ・不登校も急増

いじめは見えないところで行われる

子どもはいじめ被害を語らない

声が聴かれることがなぜ大切か

基本的な子どもの権利

基本的な心理ニーズを充足する

回復する力を支える

なぜ声を上げることは難しいのか

感情や思考の抑圧、助けてと言えない

児童相談所が関わるこどもの権利擁護

意見表明等支援事業（セルフアドボカシー）

子ども自身が自分の気持ちや考えを自由に表現できる

・ 子ども・若者の声を政策に反映する

※本県も昨年秋から、アドボカシー事業が実施され児童養護施設に入所の子ども達への意見聴き取り（アドボカシー事業）が始まっている。

誰にも左右されない意見を第三者の立場で聴き取る事業、対象者を拡大していくことが必要と考える。